

第16回京都ヒストリカ国際映画祭



会 期：2024年12月3日（火）～8日（日）
 会 場：京都文化博物館 フィルムシアター、6F和室／オンライン
 主 催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会
 （京都府／京都文化博物館／東映(株)京都撮影所／(株)松竹撮影所／
 (株)東映京都スタジオ／巖本金属(株)／(株)ディレクターズ・ユニブ／
 立命館大学／(株)Skeleton Crew Studio／(一社) 京都ヒストリカ）
 共 催：KYOTO CMEX実行委員会
 後 援：(一社) 日本映画製作者連盟／(一社) 外国映画輸入配給協会／
 (一社) 日本映画テレビ技術協会／(株)エフエム京都
 対 象：一般
 公式サイト：https://historica-kyoto.com/



総来場者数（参加数）：2,057人

■開催内容

京都ヒストリカ国際映画祭、通称「HISTORICA」・「KHIFF」は、ジャンル映画祭として世界でただひとつ「歴史」をテーマにした国際映画祭である。今年度のヒストリカの公式プログラムは、2024年の時代劇を彩った『SHOGUN 将軍』と『侍タイムスリッパ』の2作品を中心に、ジャパンプレミアを含む海外新作を4作品、日本作品の新旧8作品を上映。他にもヴェネチア国際映画祭・ボローニャ復元映画祭や京都映画企画市と連携したプログラムなど、全18作品を上映した。イタリヤ、プエルトリコ、オランダなど海外からのゲストを含め16名のゲストが来場した。



昨年からスタートした週末の2日間に開催するカンファレンスイベント「ヒストリカお座敷」は、11セッション16名の登壇者が来場した。展示エリアではVR映画の体験やシアターで上映した『雪の花 一とみに在りて一』の衣裳展を実施。引き続き好評を得ているYouTube Liveを活用したオンライントーク企画「夜のヒストリカ」も継続して配信した。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

京都ヒストリカ国際映画祭は、短編時代劇を制作する滞在型ワークショップ「京都フィルムメーカーズラボ」、時代劇映画の企画 pitching「京都映画企画市」を有する。今年度は「京都フィルムメーカーズラボ」の2013年の参加者であるレイ・フィゲロア監督の『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・カリビアン』、2016年「京都映画企画市」で選出された葛哲一朗監督の『黒の牛』の2作品を上映した。本映画祭の関連企画をきっかけに生まれた歴史映画、時代劇が映画祭の公式プログラムに上映作品、監督として迎えることは、映画祭が目指した目標の一つである。

